

平成27年8月定例教育委員会会議録

平成27年度塩尻市教育委員会8月定例教育委員会が、平成27年8月20日、午後1時15分、塩尻市市民交流センター（えんぱーく）4階会議室（401A、401B）に招集された。

施設見学 塩尻市市民交流センター施設見学（13:15～14:00）

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 9月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 平成27年度 第29回全国短歌フォーラム in 塩尻（一般の部）投稿数
報告第5号 「新体育館建設に関するアンケート」の結果速報について

4 議 事

5 その他

- その他第1号 教育委員会関係例規制定・改正について
その他第2号 平成27年度教育委員会関係補正予算（案）について<期間限定の非公開>
その他第3号 塩尻市文化会館の指定管理等について<期間限定の非公開>
その他第4号 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
その他第5号 塩尻市市民交流センターについて

6 閉 会

○ 出席委員

委員長	小 澤 嘉 和	職務代理者	林 貞 子
委員	石 井 實	委員	小 島 佳 子
教育長	山 田 富 康		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
---------	---------	----------------------	-------

こども課長	青木正典	家庭支援課長	百瀬公章
平出博物館長	中島伸一		
市民交流センター長 (図書館長)	伊東直登	市民交流センター次長 (交流支援課長)	小松秀樹
子育て支援センター所 長	掛川佳子		

○ 事務局出席者

教育企画係長	米窪昌紀	学校支援係長	太田文和
社会教育係主任	宮原さゆり		

1 開会

小澤委員長 お疲れさまでした。ただいまから8月の定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

本日、生涯学習スポーツ課長さんが、公務のために欠席でありますので、よろしくお願いいたします。

では、会議に入ります。きょう配付されました資料は2枚あり、1つは遺跡まつり、2つは文化会館の指定管理が配付されております。よろしいでしょうか。

2 前回会議録の承認について

小澤委員長 では、次第に従いまして2番、前回会議録の承認について、事務局からお願いいたします。

米窪教育企画係長 前回7月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしくお願いいたします。

小澤委員長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

小澤委員長 そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

小澤委員長 3番、教育長報告に入ります。教育長から総括的にお願いします。

山田教育長 どうも、こんにちは。暑さが残っているとはいえ、雲の流れや虫の声に、この夏の暑さがいよいよ峠を越えてきたかなと、そのように思います。

さて、市内の各小中学校では、洗馬小学校を除いて本日までに夏休みが終わり、2学期が始まりました。また、市内各保育園も通常の保育に戻っております。この夏休みには大きな事故などの報告がなく、多くの子供たちが夏のこの時期でなくてはできない体験、経験、学習を積み、生きる力に一層磨きをかけたのではないかと思います。その1つを紹介いたします。

戦後70年目のことし、広島平和教育研修から帰った広陵中学校の山本将裕君は、その報告の中で、「このような多くの犠牲者をつくり出す戦争に何の意味があるのでしょうか。確かに戦いに勝利すれば、それなりの利益が手に入るかもしれませんが、しかし、そんなものに何の価値があると言えるのでしょうか。あるはずがないのです。この世から先立たれた人、残された人、差別を受ける人、こんなにつらい思いをする人々をつくり出してまで手にするものには、何の価値もありません」と綴っています。戦争から真の平和づくりについて、確かに中学生が考えを深めてきています。他の参加者も同じような成長を見せてくれています。

それでは、本日は市民交流センターを会場にしていることでもありますので、市民交流センター全

体の活用概況と図書館運営について、特に次世代の市民である子供を取り込んだ活動に焦点を当てて報告をいたします。ただいまの伊東センター長の案内の中の話と重なることが幾つかあると思いますけれども、時間をいただいて報告をさせていただきます。

ここ市民交流センターは平成22年7月29日に開館いたしましたので、先月末でちょうど丸5年が経過したことになります。この間、当初の計画の年間40万人の利用見込みが60万人以上あり、ことしの4月には300万人を達成いたしました。これは、このセンターが図書館や子育て、市民活動など機能を融合させ、新しいサービスや体験、交流などを生み出す取り組みを積極的に押し進めてきた結果であると思います。また、このセンターは、子供たちや若者世代が多く集まる公共施設としても、市内外から注目をされております。きょうも見て回ると、高校生くらいの子供たちが、何人か勉強している姿がありました。

それでは、次に市立図書館のこの夏の子供向けの3つの取り組みについて報告をいたします。1つ目は「信州しおじりこどもの本の寺子屋」についてです。これは、今年度新たに開校したものです。今、着々と事業が進められてきています。6月スタートしたしおじりっ子ブッククラブ、これは1年間同じ仲間、読んできた共通の本についての話をするクラブです。あさって、低学年向けのよむコースと高学年向けのよむよむコースに分れて、1回目の冒険の本についてのクラブが行われます。決められた本を読んできた子供たちが、それぞれのコースでどのような話を展開させるのか楽しみであります。

7月中旬の鈴木まもる氏による「世界の鳥の巣と絵本原画展」及び講演会「絵本と鳥の巣の不思議～鳥の巣が教えてくれること～」について。この内容につきましては、行事報告の3ページのところにあるとおりであります。鈴木氏の、自分自身を信じ自分らしい巣をつくってほしいというメッセージを受けとめた子供たちや参加者が、それぞれの自分探しの旅をスタートさせるよい機会になったと思います。

もう1つ、8月6日の本ができるまでツアー。これは、本ができるまでの過程に興味のある親子が参加したバスツアーでした。手にとっている1冊の本が、どのようにつくられていくのかを実際の工場での目の当たりにした体験から、本への関心や興味が一層高まりました。多くの参加者から「いつも読んでいた本がどうやってつくられるのかわかってよかった」、「本に親しみが湧いた」という声が多く聞かれました。また、「絵本ができるまでを作家さんと一緒にツアーしたい」とか、「実際に自分の本をつくる体験ができるツアーをしてみたい」といった声も上がり、体験が新たな体験意欲に結びついていくこともわかった企画でありました。

大きな2つ目ですが、先ほど目にした3Dプリンターの設置にかかわる夏休みの子供体験講座です。公共図書館が備える国内初の3Dプリンターを使った子供体験講座は満員の盛況ぶりでありました。内容は、あらかじめ用意されたミニカーの基本形をもとに、それぞれがコンピューターのCADソフトを使って自分なりのミニカーを設計し、それを3Dプリンターで出力し、最後にチョロQの駆動部分と合わせて組み立てて走らせるという企画でありました。担当者は、子供たちの、「何でプリンターのところでプラスチックが溶けるの?」とか、「何でパソコンで設計したものがプリンターでつくれるの?」、などのつぶやきから、実際に体験することで次々と新たな疑問が湧き、好奇心が深まっていくと感じたと話してくれました。また、私が参加者に感想を求めると、「コンピューターで設計するところがちょっと難しかったけど、自分が設計したものが3Dプリンターで車の形になり、きょう組み立ててコースで走らせてみたら格好よく走ってとてもおもしろかった」と、生き生きと語ってくれました。ものづくりへの興味関心が確かに高まったと思われました。このプリンターは、しばらく児童コーナーに置かれていたようでありました。入れかわり立ちかわり多くの親子が足をとめて、興味深そうに見ていたということでもあります。とりわけ父親が足をとめて、子供

に説明している姿が数多く見られたというようにお聞きしました。時代の先端をいく機器を通して、父親と子供とのかかわりを深めるための意味あるツールともなったなと思いました。

大きな3つ目は、夏休み宿題応援隊と図書館マスターの取り組みであります。夏休み宿題応援隊は、児童コーナーに相談カウンターを置いて職員が質問や相談を受け付け、子供の主体性を尊重しながら支援をしてきております。自由研究で蚊の嫌いなことを研究したいという児童の相談に乗った職員が、その相談に応えながら一緒に本を探し、最後にその子供に職員が別れ際に「蚊の嫌いなことがわかったらぜひ教えてね」と言ったそうです。そのことをしっかりと覚えていた児童から、後日、「僕の研究でわかった蚊の嫌いなものは、ミカン類の精油が大嫌いです。レモンジソの精油入りろうそくを戸外に置くと蚊は逃げていきます。この対策をぜひしてみてください」という意味のお礼の手紙が届いたそうです。夏休み宿題応援隊の職員と児童と、その保護者との知恵の交流が深まるとともに、人間性を高め合う人の交流が具体的になされた場面だなあと、私は思いました。

めざせ！図書館マスターは、夏休み中、学校の百科事典ポプラディアを図書館に移して、図書館から子供たちに送った図書館の0から9の分類に分れた謎を解き明かせという挑戦状に答えてもらうという取り組みでありました。謎を解き明かすヒントが百科事典ポプラディアの中に隠されていることで、選んだ問題を解き明かすことができることと、分類キャラクターカードがゲットできること、また図書館マスターの称号がもらえることなどから、懸命にポプラディアに向かう子供たちの姿がありました。「百科事典を使って調べることがとってもおもしろかった」、「もっといろんなことを勉強したい」という感想にもあるように、図書館の分類に慣れるとともに、知的好奇心をさらに高めることのできる事業となったものでありました。今回、ここを会場にいたしましたので、市民交流センターの概要とそれから特に子供向けの夏休みの図書館の取り組みについて、少し時間をかけて報告をさせていただきました。

小澤委員長 ありがとうございます。夏休みならではの図書館の企画を報告してくれました。教育長報告にかかわってお聞きしたい点、あるいはお感じになった点ありますか。市民交流センターの見学後の感想等については、その他の5で扱いますので、そこで御発言いただければと思います。よろしいですか。

石井委員 ありません。

小澤委員長 それでは、教育長報告を終わります。

○報告第1号 主な行事等報告について

小澤委員長 報告第1号、主な行事等の報告についてであります。資料の1ページから5ページです。御参加された中でお感じになった点等ありましたら、お寄せください。

この7月の行事報告の中にはないんですけれども、7月の末に、企画課のほうでコミュニティスクールにかかわる研修を特設してくれました。そのことについて感じたことをお話ししたいと思います。長岡市で行われ、両小野の教育委員と合同で研修に行きました。フォーラムの分科会の中では、コミュニティスクールを立ち上げた苦労とか、悩みとか喜びとか、歩み出した手応え等を語ってくれました。本当にいい研修の機会を与えてくれたと、担当課に感謝する次第です。私が今回一番印象に残ったことは、コミュニティの運営にかかわることよりも、ほかのことです。そのアウトラインは、発表者に学校関係以外の民間の方々も発表のメンバーに加わっていました。従来の学校教育のフォーラムでは、学校関係だけの発表者でした。その発表傾向や特徴は決まってるんです。専門用語で威圧し、難しく権威的で、上から目線で非常に雰囲気固いと、こういうのが定番だったわけです。私もそれにずっと慣れっ子になっていて、学術分野だから厳しいのは当たり前、もっと厳しくやるのが当然だというような考えでできたわけでありました。しかし、今回のフォーラム

に参加して、全然質が違うことに気がつきました。民間の方と学校の方が合同でやる。そういうことで、まず用語がうんと簡単。誰もがすっと理解できる言葉。あるいは、弱音を平気で語る。学校関係者だけの中では、弱音は絶対吐かない傾向ですが、弱音を平気で語っちゃう、本音で語らう場面がいっぱいあったんです。それから、肩に力が入ってないんです、抜いてるんです、アットホームなんです。だから、分科会の雰囲気が非常に穏やかで、みんなにこやかな顔をしてやりとりをやってたわけです。私は今回初めて、自身、年をとったのか肩の力が抜けたのか、何だかちょっとわかりませんが、今までとは異質な分科会の雰囲気を感じました。これこそがコミュニティの価値なんだなあ。また、今までどちらかという学校というのは、失敗は許されない、何かあると言われる、かばい合う、いつもぐっと向かって行く。こういう学校運営体質があったわけですが、コミュニティになると肩の力が抜けて、ふっと穏やかな雰囲気のもとに学校運営ができるのか。コミュニティには、そういう価値があるのか、なんてことをすっと感じたわけです。ああいう雰囲気のところへ、現場の職員を参加させて、コミュニティってこういう価値もある、こういう雰囲気を味わえるってことを、勉強させることもいい経験になるなあ、なんてことを思いました。そういう意味合いで、米窪さんには、苦勞していただきましたが、いいお勉強の場を提供してくれて感謝でありました。

行事、よろしいでしょうか。

小島委員 私もよろしいですか。

小澤委員長 お願いします。

小島委員 こちらには載っておりませんが、7月12日の日曜日にレザンホールで、塩尻市民音楽祭管弦楽の部が行われたのですが、この日は、たくさん的高校の文化祭の日でして、例えば市内なら田川高校や志学館高校、松本市なら蟻ヶ崎高校等の。ほかの部活の生徒さんはみんな文化祭に行けるのに、吹奏楽の部活をやっている生徒さんはその文化祭に行けなかったと思うのです。やっぱり行ってみたい高校とか、仲のよかった先輩のところに行きたい生徒さんもいたと思うので、この市民音楽祭の日程を変更することはできないのでしょうか。

小澤委員長 当日、感想文とか意見文とか、そういうペーパーなかったですか。

小島委員 なかったです。

小澤委員長 あれば、そこに書いてやれば、声が伝わるんですが。

小島委員 教育委員会は、何も言えないのでしょうか。

小澤委員長 主催が違いますから。

小島委員 わかりました。

小澤委員長 志学館高校の校長にお伝えください。

林職務代理者 いいですか、もう1点。私、8月2日に初めてですね、高ボッチ高原の観光草競馬というのに参加させていただきました。本格的な競馬っていうことでちょっとびっくりしたんですけども、本当に62回ということに積み重ねてあって、本当にスムーズな大会運営ということで、本当に皆様の努力というものを感じましたけれども、1点ちょっと気になったことがありまして。東山の入り口から市役所とか駅方面に帰る帰りのバスの中でなんですけれども、一番前に乗った方がですね、車の揺れと同時にシートから滑り落ちてしまって、尻餅をついてしまったんですよ。それで中年の、何て言うんですか、周りにいた人たちがぱっと気づいて、ようやく立ち上がることができたんですけども、運転手の方はそれに気づかなかったのか、周りがあんまり騒がなかったもので、緊急停止をするってこともなかったんですね。頭を打たなかったということもあったので、そんなに大事には至らなかったんですけども、市役所のところで下車する際に連れの男性の方が非常に憤慨していて、やっぱりそういうことがあれば、とまってちゃんと安全を確認するのが

当たり前ではないかというふうに憤慨していたのは、本当になるほどとうなずけました。それで、私は後ろのほうから見ていたんですけども、その方が腕のこういうアームですか、膝のアームをおろしてなかったとか、荷物を抱えていたために手すりにつかまってなかったという、ちょっと不用意な部分もあったようには思ったんですけども、やはり乗っている方の安全喚起をする意味でシートベルトを着用とか、手すりにはつかまってくださいって言うことは、運転手の方は必ず、ちょっと面倒くさいようですけども、その都度その都度やっぱり口頭で言うって言うことは、最低のマナーだったような気がしました。高ボッチの草競馬自身は本当にいい天気で、最高の楽しい1日を過ごさせていただいたので、本当にありがとうございました。以上です。

小澤委員長 安全対策関連で、目をつけていただきました。関係部署にお伝えください。

○報告第3号 後援・共催について

小澤委員長 それでは、後援・共催についてであります。7ページから9ページ、見ていただいて、御意見等ありますでしょうか。後援・共催よろしいでしょうか。

石井委員 教育委員会の職員が直接関係のある行事等々については、その担当の皆さん方からいろいろ問題点や、よかったとか、そういったことを一言ずつ言ってもらったほうがいいと思います。私ども全部その行事見てるわけではありませんので、そんな感想がほしいと思います。全く別の人がやってる団体もあり、そういったことは仕方ありませんけれども、例えば寺子屋にしても、そういったことで皆さん方がかかわったことについての感想というか、こういったところがよかったとか、悪かったってようなことを直接担当している方々の声をお聞きしたほうがいいかなあなんて思っています。

小澤委員長 主な行事等の報告についての要望です。

石井委員 教育委員会の職員が担当した場合には、そういったこともいいんじゃないかなと思います。

小澤委員長 おっしゃっていることは、よくわかります。レジュメの中に載っております7月の分について、もし、事務局のほうから追加説明等ありましたら上げていただければと思います。よろしいでしょうか。では、次回から事務局もお声を上げていただければと思います。お願いいたします。

○報告第2号 9月の行事予定等について

小澤委員長 9月の行事予定を抜いてしまいましたので戻ってください。6ページです。目で追っていただいて、6日ひらいで遺跡まつりがあります。13日ぶどうの郷ロードレース、24日定例教育委員会、これは平出博物館で行われます。明るる日25日、こんにちは教育委員会、西部中学校で1時半からあります。26日は、全国短歌フォーラムがレザンホールであります。全体にかかわるものはこのくらいでしょうか。あとは、個々の対応となります。

石井委員 13日のロードレースですけども、委員長ということになってますけど、我々はいいいわけですか。

小澤委員長 都合つけば、顔を出していただければありがたいと思います。

林職務代理者 ちょっと今、そのロードレースの予告のね、予告の案内板の立て看板のことでちょっと気になったことがあったんですけども、こちらから松本方面に向かうと、左側にマクドナルドがありますよね。その手前を西側に入っていく道の踏切を渡った向こうに予告のぶどうの郷ロードレースっていうのが、予告案内の立て看板が掲げてあるんですけども、ちょっとそれが歩道にかかっている、あそこのところ自転車で通ったりする人が、丘中の生徒もいるのかもしれないけれども、ただでさえ踏切で危険で狭いところに、何て言うんですか、歩道を塞ぐような形でちょっと立て看板、予告案内がかけてあるんで、あれはもう少し横にずらすとか、何かちょっと工夫していただい

たほうがいいんじゃないかというふうなことをちょっと感じましたけどもね。

小澤委員長 対策ですね。

林職務代理者 そうなんですけど。

小澤委員長 安全に対してすぐ対応していただければありがたいわけでありませう。

米窪教育企画係長 わかりました。

小澤委員長 お願いします。行事予定よろしいでしょうか。

○報告第4号 平成27年度 第29回全国短歌フォーラム in 塩尻（一般の部）投稿数

小澤委員長 それでは、報告第4号、第29回全国短歌フォーラム投稿数について御説明をお願いいたします。

岩垂こども教育部長 先ほど委員長からもございましたけれども、本日、中野生涯学習スポーツ課長ですけれども、短歌フォーラムの関係で、馬場先生、佐佐木先生、永田先生と一緒に、選考会が開催されます。その関係で出張しております、欠席ということで申しわけございません。

29回の全国短歌フォーラム in 塩尻投稿数の関係について報告させていただきます。ごらんのように、平成27年度の欄でございますけれども、市内221人から始まりまして、合計で1,414人という投稿者数でございます。これにつきましては、第10回のときが3,440人ございましたので、その約半数ということになるわけでございますが、近年どんどん減少していたものが、一応ここで前年に比べてですね、23人ではございますけれども、ふえたということでございますのでお願いいたします。

投稿歌数でございますが、自由題、題詠歌ということで、題詠歌は御存じのように木または樹ということでお願いしたわけでございますけれども、全部で2,682首ということでございました。

9月26日の参加者数でございますが、ごらんのように合計で479人。28回に比べますと若干市内の人数が減っているというような内容になっております。右から2番目のみである記ということでございますけれども、コースナンバー①というのが広丘の近辺でございますが、これが49人。コース②というのが平沢を見て回るということでございますが、21人ということで、合計、合わせて70人ということでございまして、やはりこれも若干減少傾向にあるということでございます。投稿数については以上でございます。

小澤委員長 ありがとうございます。部長さんの御説明をお聞きし、御質問あるいは御意見等お寄せください。

では、2点お願いします。1点目であります。ピーク時の半数とはいえ復活してきているということで、ちょっと安堵しているわけでありませう。この復活に際しては事務局で相当のこ入れというか、働きかけというか、汗をかいたことと思ひます。そこら辺の働きかけの具体を紹介していただければと思ひます。

2点目、参加者の状況を見てもらったときに、部長さんがお話ししているとおり、市内の参加者が激減している。平成25年には148人だったわけでありませうけれども、それが2年で半分になってしまった。塩尻市の特色ある大きな活動の1つであります短歌フォーラムが、言葉は失礼ですけれども、こんな状況では、お金にかけているけれども市民への成果が見えないと、こう言われちゃいそうな感じもいたします。私たちも含めて、参加者増の働きかけをしていかななくては行かないわけでありませう。9月26日、まだあと一月ちょっとあります。私も地域に入り、働きかけてみたいと思ひております。このフォーラムは参加無料です。だから気楽に、気軽に行つて、ちょっと顔だけ出してくると。投稿はしないけれども講演会だけでも聞いてこようと、そんなことで働きかけていきたいと思ひます。事務局でこんなことをしたらどうかとか、委員のほうでこんなことをや

ってほしいというようなことがあったら、お話しください。

岩垂こども教育部長 一応ですね、以前も発表したかと思うんですけども、えんぱーくで、お笑い芸人を含めたですね、若い方に対しての呼びかけというようなこともやっておりますし、この前も反省会があった中では、県外がですね、31人ふえているというのもありまして、これはそれぞれ短歌フォーラムの実行委員の委員さんの中ですね、いろいろ働きをしていただきまして、例えば糸魚川との姉妹都市の関係で、それぞれ投稿を呼びかけたということで、職員も含めてですね、あらゆる面で機会を捉えるごとに投稿を呼びかけたということで、若干の回復傾向にあるということでございます。

それから、2番目のところ、皆さんにもお願いしている点でございますけれども、実は今回が29回目ということで、30回目は来年に迫っているということでございます。その中でまた新たにですね、委員会を強化する中で、実行委員会の中、の企画で、どのような働きかけをしたらいいかということも含めて、これから検討していきたいと思います。今年度の参加者、これからの関係になりますが、また委員さんのお知恵を拝借したいということでございますが、あらゆる面でPRをしていきたいというふうに考えております。以上です。

小澤委員長 タレントさんを招いて、プレフォーラムをやりました。あれは1つの大きなファクターになっているわけです。

岩垂こども教育部長 そうですね。

小澤委員長 中央から名の知れた方が来てくださり、てこ入れしてくれば違ってきます。委員自身も、地域の中での掘り起こしのアクションを起こしていけばと思います。市内がこんなに減ってしまつては困りますので。

フォーラム、よろしいでしょうか。それでは当日、御参加よろしくお願ひいたします。

○報告第5号 「新体育館建設に関するアンケート」の結果速報について

小澤委員長 次は、報告第5号「新体育館建設に関するアンケート」の速報でありますけれども、このことについて御説明をお願いいたします。

岩垂こども教育部長 続きまして11ページをお願いいたします。既に新聞報道等でごらんになっている方もいらっしゃると思いますけれども、アンケートにつきましての結果速報でございます。

配達世帯につきましては2万6,387世帯。これに対する回収数でございますが、1万249世帯。この分母、分子で割った数字がですね、38.84%という結果でございました。

その内訳でございますけれども、記載したとおりなんですけれども、建設したほうがよいが47.71%、しないほうがよいが44.82%、わからないが7.47%という結果でございました。

これについて若干説明させていただきたいんですが、前回アンケートを24年ですか、1万人アンケートというのをやっているわけでございますが、このときの回収率が50%を超えております。このときに、なぜ今回38%に比べて50%を超えたかといいますと、そのお礼を兼ねまして、お礼の手紙を出して、出していない方についてはまた出してくださいというような形で出しているということで、2回催促しているというようなことがございまして、それは50%を超えているわけですけども、52%でございましたけれども、それに比べまして今回は38.84%ということで、若干下がっております。ただ、これが8月7日までの有効のはがきでございましたので、それ以降、昨日までで143通が来ております。締め切った後に143通ということで、これは当初のお約束どおりですね、期日を区切って8月7日までの消印有効ということでございましたので、一応参考値という形で計算を、この143通を入れますと39.38%ということで、40%に近い方の回答でございました。

今後でございますけれども、要は47%ということで、50%をそれぞれどちらかが超えていればそれで方向性が決まるわけですが、これが50%を超えなかったということでございますので、また議会と相談して決定していきたいということで、具体的に今月の31日の特別委員会の中で、この内容の御報告をさせていただきたいということでございますのでお願いします。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。既に新聞等で速報値、御承知かと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

石井委員 回答者が少なかったということには、ちょっと意外だったなと思えるんですけども、分からないっていうのが7.4%。私は分からないっていうほうが多いかな、なんて思っていました。案外少なくて驚きましたけれども、当初1人でも2人でも多ければ実行するよなんていうようなことを議会では言っていましたけれども、この50%以下の回答率ということになると、ちょっと問題があるかな、なんて思っていますけれども。そこら辺は、議会はまだこれからでしょうけれども、どんな感触でしょうか。

岩垂こども教育部長 回収率が50%というのはですね、通常のアンケートですと35%が通常のもので、前回の52%というのはですね、やはりさっきの説明のとおりですから、今回多く見えてですね、後から来たのも含めていくと40%近くに行くと。これだけ全部で2万6,000という数字をですね、出したのに対して、40%近くというのは、本当は50%を超えていけば回収率、よかったですけれども、それは目標で、これがかなり高い目標だったというふうには思っております。具体的な内容はですね、例えば、わからないというもの、前回は1万人アンケートのときに10.8%ございました。これが今度は7.47%ということで、若干というんでしょうか、ある程度減ったということが、提案した内容が具体的でしたので、ある程度理解は深まったかというふうには思っておりますけれども。ただ、これから議会の中でですね、それぞれ皆さん、議員さんの考えをお聞きする中で、市長もある程度考えも方向も決まっているように聞いておりますので、そんなことで進めていきたいと思っております。

石井委員 それともう一つ、現在の提案された内容の分析っていうのは、あのままで行くっていうことですか。もう一考する必要があるんじゃないかな、なんて思っているんですが。

岩垂こども教育部長 もちろん、案ということでは出させてもらいましたけれども、なおかつですね、いろいろ深めていかなければいけないというふうに思っております。特に、例えば建設するときのですね、機能性とかシンボル性とかですね、あと本当に皆さんがつくってよかったと思えるようなものにしていかなければいけませんので、これからいろいろの各方面からですね、意見をいただく中で最終案をつくっていききたいというふうに思っております。

石井委員 わかりました。

小澤委員長 ほかはよろしいでしょうか。

それでは、きょうは報告を受けたということでお願いいたします。今後、市の理事者とか議会のほうで方向性を定めていくわけでありましてけれども、私たちも注視、注目していきたいなど、そんなことを思っております。

4 議事

5 その他

○その他第1号 教育委員会関係例規制定・改正について

小澤委員長 次に行きます。その他第1号であります。平成27年8月教育委員会事務局に係る条例

等の制定及び改正についてであります。資料12ページ。事務局からお願いします。

青木こども課長 それでは、こども課よりお願いいたします。資料は12ページをごらんいただきたいと思っております。塩尻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正についてでございます。

まず、改正の理由でございますけれども、幼稚園の就園奨励費、これは学校教育法に基づいて設置されました私立幼稚園の設置者が入園者、保護者に行います保育料、それから入園料の多子減免措置に対しまして、予算の範囲内で市より補助金を交付することによって就園の補助を行っている補助金でございますけれども、これに伴う国庫補助の限度額、それから対象区分の内容が変更されたことに伴いまして、こちらの交付要綱の改正を行うものでございます。

改正の概要についてでございますけれども、アになります。現在市民税の非課税世帯、要は市民税がかかっていない世帯ですね、それから市民税の所得割がかかっていない非課税の世帯のうち、お父さんが1人幼稚園に入っている場合、それから同じ世帯から2人以上、御兄弟で2人以上就園している場合に、その第1子については、補助限度額を今までは19万9,200円で補助をしておりましたが、これを27万2,200円に引き上げるものでございます。また同一世帯から2人以上、兄弟で2人以上就園している場合の第2子については、現在は補助限度額を25万3,000円としておりますけれども、これを29万円に引き上げるものでございます。

次に、イのところになりますけれども、1つの世帯で2人以上、3人以上就園している場合の該当者について、現在はその兄弟が保育園に入っているか、あるいは情緒障害児の短期治療施設通所部ですとか特別支援学校の幼稚部、こういったところに就園されている場合も、御兄弟の数として取り扱っておりましたが、それに加えて、多子減免の幅が広がっておりますので、児童福祉法に基づく家庭的保育事業、いわゆる保育ママというものでございますけれども、また、小規模の保育事業、それから居宅訪問型の保育事業、それから事業所内の保育事業といった地域型保育、こういったものが今回子ども・子育て新制度の中で出てきておりますので、これについても新たに該当させるということでございます。

また施行日については、今年度4月1日から適用するものでございますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

小澤委員長 御説明ありがとうございます。御質問、御意見ございますでしょうか。

これに該当する保育を利用する御家庭の状況、どうでしょうか。

青木こども課長 現在のところはですね、同時に在園されているという方は確認されておられないので、一応国のほうの補助金の制度の幅が広がりましたので、それに備えまして市のほうでもですね、同じ状況に備えて該当があったときに補助金を出して差し上げるといいますか、そういう体制を整えておくということでございます。

小澤委員長 ありがとうございます。話はずれですが、こういう家庭保育事業をなさる方、もし万が一ですが、新聞に載るような不祥事関係が起こった場合には、誰が指導するわけですか。

青木こども課長 まず一番初めには直近のところといいますか、直接一番近いところへ携わっているのはやはり教育委員会でございますので、こちらのほうで何らかの指導等をさせていただく必要があります。

小澤委員長 そのように制度改正されたと思っております。大分守備範囲が広がりますけれどもよろしくお願いたします。

報告第1号、よろしいでしょうか。それでは次へ進みたいと思っております。

○その他第2号 平成27年度教育委員会関係補正予算(案)について<期間限定の非公開>

小澤委員長 予算関係案と文化会館の件については、まだ議会が開かれておりませんので、非公開扱

いにしたいのでありますけれども、非公開としてよろしいでしょうか。

それでは、2件を非公開といたします。傍聴者はありません。

まず第2号、平成27年度教育委員会関係補正予算（案）について御説明をお願いします。

青木こども課長 それでは、資料の13ページをごらんいただきたいと思います。

平成27年度教育委員会関係補正予算（案）についてでございます。そのNo. 1でございます。こども課でございますけれども、03款民生費02項児童福祉費2目児童運営費の14事業給食運営費の備品購入費でございます。こちらにつきましては、広丘南保育園にあります給食調理室ですけれども、こちらにございます冷凍冷蔵庫でございますけれども、これが設置後19年を経過しまして、性能表示にあります温度を保つことができずに食品衛生上支障が出てくる可能性がございます。また、古い冷蔵庫であるために修繕にも耐えない状況でございます。子供たちの安心・安全のためにもここで補正をさせていただきまして、冷凍冷蔵庫のほうの入れかえをさせていただきたいということで、ここで92万1,000円の補正をさせていただきたいということで、議会のほうにも上程をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

小澤委員長 続けて総務課のほうでお願いします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは2番目、教育総務課でございます。予算科目は中学校管理諸経費の中の北信越・全国大会出場者記念品代で、当初予算が6万2,000円でした。内容のところに記載してございますが、出場者数が増えまして、うれしい誤算といえますか、記念品としてお一人2,000円分の図書カードを贈呈しておりますけれども、当初予算では31人の見込みでございましたが、夏の大会の出場者が決まり、現時点で41人が既に確定をしております。今後の冬等の大会もございますので、見込みを含めまして57人ということで、不足分の5万2,000円、人数では26人分の増額補正をお願いするものでございます。以上でございます。

小澤委員長 ありがとうございます。子育てセンター、引き続きお願いします。

掛川子育て支援センター所長 では14ページをお願いします。子育て支援センターのこども広場事業保育費になります。県の木育推進事業補助金が29万円に決定いたしましたので、県産材の木製遊具を購入しまして、こども広場の木育コーナーの充実やイベント等で活用していきたいと思っております。

小澤委員長 ありがとうございます。3点について一括して御説明いただきました。御質問等ございますでしょうか。

1点、教育総務課ですか。北信越・全国大会出場者、これは小中まででしょうか。お願いします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 教育総務課で管轄しておりますものについては、小中学生のみ。小中体連の関連する子供たちの関係でございます。高校生以上につきましては、生涯学習スポーツ課の社会体育の方で対応しております。以上です。

小澤委員長 高校生も相当全国レベルの大会に出場する子もふえております。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 本日、生涯学習スポーツ課長が欠席で、本年度の状況はちょっとわかりませんが、インターハイ等の出場については昨年度までにおいてもかなり増えてきている状況がございまして、高校生の活躍では、特に都市大塩尻高校あたりは全国大会の常連になっている部分もございますので、全国に塩尻をPRしてきていただいているような状況でございます。

小澤委員長 今、次長さんのほうでうれしい誤算というお話があったわけでありまして。本当に飛躍的に増加している。なぜかなと考えました。部活の指導の質が上がったのかなとか、体力的に力がついてきたのかなとか、うれしいことを考えちゃうんですけど。教育長、そこら辺のことどう考えますでしょうか。

山田教育長 義務教育の関係については、激励会に市長と共に私も参加して、全ての子供たちを激励をしてきています。、学校単位のものも確かにあるんですけども、社会体育、例えば丘中の関係の柔道だとか剣道の関係、そういったものは社会体育が多いですし、水泳等についても社会体育がとなっておりまして。そうしたクラブや道場で、小さいころから積み上げてきている子供たちが力をつけているということはあるかと思えます。

それからあと、きのうも表敬訪問があったんですけども、県で優勝して全国の陸上大会にソフトボール投げで出ていく小学生がいるんですけども、その子は野球をやっている、野球を中心にやっっている、学校の陸上クラブと一緒に練習し、ボール投げの力をつけてきたという子供でもありますので、そうした小さいころからの運動の積み上げと、それから学校の体育が一体になって成果があらわれた例であり、これからはこうしたかたちもいいなと思っております。

小澤委員長 社会体育の関係も大きい。石井さんは、若いときから社会体育に相当に力を注いできています。その努力の花が咲きつつあります。

石井委員 中学生もね、かなり力をつけてきています、いろいろの面でね。そこはやっぱり、小学校のときの基礎体力づくりが茂ってきているんじゃないかなというように私は思っています。ただ、壮年、要するに壮年層になると、なかなか企業が大変で、いい選手が育たないっていうのは事実ですね。明日から、全国の大会が富山で開かれますけども、野球で言いますと、今大会へ出れるかどうかなんて今心配しているところですけども。なかなか、部活についていろいろ言われてきましたけれども、やっぱり指導者がいいと子供たちも伸びます。だから、指導者を育成するというのが一番大事ではないかなというふうには私は思っています。このごろ県の体育協会も教育委員会の体育協会も、指導者の育成ということへ力を入れてきていまして、全ての競技に対しての指導者を育成というのは、これは8割の先生方ですけども、先生方自由にそういった研修会へ出られますのでいいんですけども、社会体育の場合にはなかなか難しく、私も20回コースを受けたことあるんですけども、なかなか大変なことで、もうちょっと短縮して、いい指導者をつくれなにかと思っております。

小澤委員長 ありがとうございます。過日、県との教育行政の懇談会がありまして、学校部活のあり方についても意見交換があったわけですね。石井さんのおっしゃるとおり、指針の策定の中には、優れた指導者が育ってほしいという願いがあります。指針について、社会体育関係の方々が御理解くださればありがたいと思います。お願いします。

○その他第3号 塩尻市文化会館の指定管理等について<期間限定の非公開>

小澤委員長 それでは続いて、塩尻市文化会館の指定管理者等についてを議題にします。これは、当日配付の資料1枚ものです。お出しください。このことについて、事務局から御説明をお願いいたします。

宮原社会教育係主任 それでは、生涯学習スポーツ課よりお願いします。私は、生涯学習スポーツ課社会教育係の宮原と申します。よろしく申し上げます。

それでは、資料No. 8をごらんください。塩尻市文化会館の指定管理等についてでございます。

まず、1の趣旨ですけども、文化会館の指定管理者の募集を6月10日から7月9日まで行ったところ、塩尻市文化振興事業団から指定の申込申請がございまして、応募者1団体による選定審査会の審査が行われました。結果、文化振興事業団が、指定管理者の候補者として選定されました。塩尻市公の施設の指定管理者の指定の手続き等に関する条例の規定により、文化会館の指定管理者の指定及びそれに伴います指定管理料の、債務負担行為の補正予算(案)について、市議会の9月定例会に上程するものでございます。

内容につきまして、施設の名称は塩尻市文化会館で指定管理者の候補者は、一般財団法人塩尻市文化振興事業団になります。指定の期間が平成28年4月1日から平成33年3月31日の5年間になります。

3の経過についてです。7月7日に文化振興事業団から指定管理者の指定申請書の提出がございました。2日後の7月9日に指定管理者の募集期間の終了ということで、応募者は1団体、文化振興事業団のみでありました。17日には、塩尻市公の施設の指定管理者の選定審査会で、1団体によるプレゼンテーションが行われました。同日になります、候補者の決定と公表がホームページでされました。22日には、選定審査会の審査結果を文化振興事業団へ通知いたしました。経過については以上です。

今後の日程につきましては、9月の定例会に上程いたします指定管理者の指定の議決と、それに伴います指定管理料の債務負担行為の補正の議決後、それを受けまして10月になりますが、指定管理者の指定及び公告。10月以降には文化振興事業団との基本協定の締結。28年の3月には予算の議決という予定になっています。

次に裏面になります。平成27年度塩尻市一般会計補正予算（案）ということで、指定管理に伴います管理料の債務負担行為の補正になります。期間が平成28年度から5年間の、限度額が6億8,500万円でございます。また、年度ごとの管理料につきましては、内訳のとおりでございまして、1億3,700万円掛ける5年の6億8,500万円となっております。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。御苦労さまでした。応募者が1団体、塩尻市文化振興団体のみということであります。御質問、御意見、御要望ありましたら。

特によろしいでしょうか。議会でも何か注文等がでそうですが。

宮原社会教育係主任 はい。

小澤委員長 塩尻市文化事業団も内部努力を重ねていただきたいと、そんな要望であります。それでは、以上2件は非公開でありましたので、ここで非公開を解きたいと思います。

○その他第4号 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表について

小澤委員長 続いて第4号、平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表について、事務局から御説明をお願いします。

青木子ども教育部次長（教育総務課長） それでは、その他第4号をお願いいたします。資料No.9、15ページになります。

平成27年度全国学力・学習状況調査結果の公表についてということで、4月に調査が実施されておりますけれども、その結果が今月通知されますので、公表方法等について御確認をいただきたいものでございます。

1番、公表方法でございまして、昨年度までの決定事項と同様でございます。まず、(1)の教育委員会といたしましては、アとして、市民に対してこれまでと同様に結果概要や分析結果を公表する。イとして、市全体の平均正答率等の公表は行わない。ウとして、個々の学校名を明らかにした公表はしない、という3点が確認事項でございます。それから(2)の学校につきましては、保護者や地域住民に対して、これまでと同様ですが、結果の概要、それから分析、学校の取り組み等について、自校の状況を公表していくという内容でございます。

2番の今後の予定でございますが、8月25日に、文部科学省から調査結果の通知が教育委員会に来る予定となっております。それを受けまして、市では教育センターを中心に分析等を今後行っていくことになります。それから26日には、学校のほうにも結果通知がされるという状況でございます。教育センターを中心に分析をいたしますので、9月24日、定例教育委員会の協議会のほ

うで実際の公表内容等を具体的に御説明させていただいて、御協議いただく予定でございます。その後、10月22日の定例教育委員会で正式に公表内容等を決定いただいて、11月1日から公表という例年同様の日程で考えておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

小澤委員長 ありがとうございます。昨年と違いますか、例年同様であるということでもあります。御質問、御意見ありますか。ないと認め、27年度の公表については例年どおりです。

1件要望であります。公表に当たっては、例年同様の、公表の方向、内容、これらを堅持していただきたいなという要望であります。

また、学校訪問をしての感想も含めますけれども、さらに授業改善の実際、これについて事務局のほうで指導を強めていただきたいと思います。訪問してみて、我が教室の授業改善はこれだというのが見えないんです。旧態依然のことを繰り返している。また、学校全体として職員が心を合わせてこういう形で授業改善をしているというものを、訪問者に対して見える、そういうようでありたいわけです。例えば、どの授業を見ても書く時と場をきちんと確保している、あるいは、どの教室を見ても話し合いの場をきちんと持っている、あるいは、家で勉強して調べてきたことを授業の中でしっかりと発表し合っている、練り合っている。どの教室もそういうスタイルで統一されていると。こういう全体としての統一スタイルが塩尻市は弱い。みんな、てんでばらばら。それが教師の独創性さと言えばそれまででありますけれども、今は、それが通用しない、その弊害が指摘されていると思いますので。我が学校では職員共通として、こういうことを意思統一してやるんだと。それをもう少し色濃く出していただければありがたい。そんな要望であります。

○その他第5号 塩尻市市民交流センターについて

小澤委員長 では次に、本日見学しました図書館を中心にした市民交流センターえんぱーくについて、お感じになったことを、お一人ずつお話しただければありがたいと思います。

林さん、どうでしょうか。お願いします。

林職務代理者 受験生の子供がいると、子供がえんぱーくで勉強してくるっていうと、本当に親は安心して出してあげるんですね。というのは、この環境だと勉強に集中できるっていうことと、好きな本、好きな本っていうのは趣味の本がかなりあるんですね。音楽の楽譜にしてもあるっていうことで、何か子供たちは、余暇にいろいろ見たりするのがすごく楽しみだっていうようなことをよく言ってました。近くにアップルランドもあったりセブンイレブンもあったりっていうことで、お弁当を持たせる必要もなく、ちょっとお小遣いを渡せば親は出してあげるっていうような環境で、私は本当にえんぱーくに、すごくお世話になりました。

私も時々この施設を利用するんですけども、今回、案内されてみて、本のフロアでも行っていないところがこんなにあったのかっていうことにちょっとびっくりしました。落語のところもそうですし、筑摩書房さんの古田さんのあそこのコーナーなんて、あんなどこまでは行ったことがない。常に何か普通の本とか雑誌を選んで、すっと帰って、30分くらいいたらいいかなみたいな感じでこのえんぱーくを利用していたので、今度はちょっとゆっくり、もう本当に1日かけて、このえんぱーくの中の本を閲覧したり見たりするっていうようなことを、ちょっとやってみようかなというふうな思いを、きょう感じました。ありがとうございました。

小澤委員長 ありがとうございました。

小島委員 私は、たまたま夏休みに親戚が来て、図書館の話になり、その親戚のところでは図書館をどこにつくるかでさんざんもめて、何回も計画が白紙になった末に、駅からも遠い周りに何もないところにどんと図書館をつくって、駐車場も有料にしたので利用者が少ないと嘆いていたのを聞いていましたので、今日隅々まで見学させて頂いて、年配の方から学生さんやベビーカーを押したお

母さん方等、本当にたくさんの市民が交流をしているところに図書館があってよかったなと思いました。ありがとうございました。

小澤委員長 ありがとうございます。

石井委員 私、開館したときに見せていただいたんですけども、それがうまく活用されて非常に利用者も多いってことは、それは職員の皆さん方の努力だとも思いますけれども、本当に市民と一体になった交流センターっていうのが生き生きとしているなど。交流センターえんぱ一くという名前がよくマッチングするなど。ただこれ、図書館というだけじゃもったいないな、要するにえんぱ一く、交流センターという名前が非常に市民には有効的に使われているんじゃないかなというふうに感じ、感心しました。以上です。

小澤委員長 ありがとうございました。私からお願いします。

開館して5年がたったわけでありまして。当初の1年目、2年目は喧騒といいますか、物珍しさがあり、楽しいような、銀座の街を歩くような雰囲気、落ち着くには、ちょっとごしたいなという思いがあったわけでありまして。けれども、年々それがしっとりと穏やかになっていく、安心していただける空間になっている、こんなことを思います。辞書の言葉に熟成っていう言葉がありますが、そんな熟成っていうような言葉が当てはまる空間になりつつあることを思います。

また、きょう案内してもらった中で、無駄な場所が一つもない。あれ程活用されてる。言い換えれば、費用対効果は抜群だなと思いました。遊んでるところは見あたりません。すごいことだと思います。

市外の方と語り合ったときに、塩尻市のえんぱ一くはいい、あそこへ行くと落ち着くと、よく言われるんです。また、えんぱ一くは、塩尻市の特色だと言われました。長い間、こういわれても私はわかんなかった。ですが、きょうの説明を受けたとき、その1つが理解できました。あのつくりがそういう安心感を醸し出してるんだなってことを、きょう初めてわかったわけでありまして。市内外の方に伝達していきたいと思います。

また、日頃、えんぱ一くへ来ても、表面だけは見えますが、裏のところは見えません。裏を見たいとの思いは結構あったわけですが。例えば免震のところとか、書庫の状況だとか、裏でどんな仕事をなさっているのか、そういうところを見たかったわけですが、今日の移動教育委員会のお陰で、願いがかなったような思いであります。

今回は、平出博物館に行くわけですが、あそこでもまた、表とともに裏の奥を含めたところを見せたり、語っていただければと思います。このような移動教育委員会は、来年以降も継続していただきたいと、そんな思いです。

これ1つ余分なことではありますが、先日、全国学力テストの検証をベネッセで行いました。学力の高い子供はやっぱり図書館が好きだ。本が好きだとあります。それで、さらに図書館好きにするために、子ども達にとって図書館の裏や表は、知らないところがいっぱいあります。ちっちゃいおちびちゃんたちを招いて、図書館探検コースとかを企画して、図書館に親しみを感じてもらい、そんな試みをしてもらえればと思います。子供たちの図書館に足を運ぶきっかけづくりをお願いいたします。ありがとうございました。

移動教育委員会、今回は平出博物館で、楽しみであります。

以上で、用意された案件は全て終わりました。事務局のほうからありますでしょうか。

米窪教育企画係長 事務局は特にございません。

小澤委員長 ひらいで遺跡まつりについて、中島さんをお願いします。

中島平出博物館館長 平出博物館の中島と申します。よろしくお願いたします。御案内のとおり、9月6日にひらいで遺跡まつりを開催する準備をしております。大変お忙しい時期と思っておりますけれども、

ども、たとえ30分、1時間で結構でございますので、ぜひ足を運んでいただいて、次回の教育委員会のときに御意見等を頂戴できると大変ありがたいと思っています。よろしくお願いいたします。

小澤委員長 ご参加をお願いいたします。

伊東市民交流センター長 見たことはありますか、**「ぶたにく」**という絵本というか写真を使った絵本ですけど、本の寺子屋の一環で行います。豚さんかわいいという話ではなくて、実は食べる豚と向き合うという話ですね、結構シビアな話で大人向けの内容で、こういうものを通して子供とどう向き合うかというような投げかけの内容になっておりますので、子供さん向けでない、子供はむしろ託児の対応という扱いになってまいります。できれば参加いただければということで御案内いたしました。よろしくお願いいたします。

小澤委員長 ありがとうございます。委員の方ございますか。いいですか。

6 閉会

小澤委員長 では、以上で8月の定例教育委員会を終わりにしたいと思います。

○ 午後3時20分に閉会する。

以上